亀山殿の御池に

亀山殿の御池に大井川の水をまかせられんとて、土民に仰せて、水車を作らせられけり。多くの銭を給ひて、数日に営み出だして、掛けたりけるに、おほかためぐらざりければ、とかく直しけれども、つひに回らで、いたづらに立てりけり。

さて、宇治の里人を召して、こしらへさせられければ、やすらかに結ひて参らせたりけるが、思ふやうにめぐりて、水をくみ入るることめでたかりけり。

よろづに、その道を知れる者は、やんごとなきものなり。

（第五十一段）